

005 Cacco

作品名	作家名	感想	評価
ルート350 (サンゴーマル)	古川日出夫	<p>作者は息子のガールフレンドのおじさんです。彼女から借りて読みました。若いのになかなかの読書家。さすが血は争えないのかも。</p> <p>本の内容は難しかった！彼女の言うことにはこの本は読みにくいんだとか。彼女のお薦めは「Body & Soul」。今度これ貸して。</p>	☆☆☆☆
暗いところで待ち合わせ	乙一	<p>一視力をなくし一人暮らしを続ける女の子ミチルの部屋に、殺人事件の容疑者となったアキヒロが逃げ込み、奇妙な同居生活が始まるー誰かが部屋にいることを気付きながら知らない振りをするミチルと、気付かれていることを推測しながら部屋にい続けるアキヒロ。ふたりが初めて接触するシーンがじんときくる。ふたりぶん用意したシチュエーションを会話はないけれど同じ食卓で食べるふたり。淋しい心が寄り添い混ざり合う。ミステリー仕立てになってはいるものの小説の読みどころはこのシーンに集約される気がする。まあわたしはすぐに先読みをして犯人探ししちゃうんだけど。</p> <p>ほめすぎになるかなと思いつつ、ウィリアム・アイリッシュの「暁の死線」のようなせつなさがあると思う。</p>	☆☆☆☆
幸福な食卓	瀬尾まい子	<p>とても読みやすく登場人物もなかなか好み、なんだけど何か物足りない。ミスチル「くるみ」が主題歌で映画化されるということできちんとお金を出して新刊買ったのに。さらさらっと流れて行き過ぎるのかも。もうちょっとべたべたしてたり、ぎとぎとしてるほうがいいな。</p>	☆☆☆
Jの神話	乾くるみ	<p>すごくつまらない本を読んできました！全寮制の名門女子高、雨、塔からの墜死と大昔の本格推理の匂いがプンプンするのだけれど、後半はなんだこりゃ！って怒りたくなる。この作家さんの「塔の断章」は面白いんだけどね。</p>	☆

<p>心にナイフを しのばせて</p>	<p>奥野修司</p>	<p>1969年川崎市鷺沼のサレジオ学園で起きた同級生殺人事件を被害者親族のインタビューでまとめたもの。帯の文句は「同級生の犯人は弁護士になっていた！」じゃあ、何？殺人者は社会復帰しちゃいけないわけ？そりゃ被害者に心底詫びる気持ちは必要だと思うけど、弁護士になって優雅に暮らすのは云々・・・ばっかに重きを置いてるみたい。実際にあった事件を扱うのは書き手だって慎重かつ謙虚にならなきゃ。この作者にはそれが欠けてると思うのはわたしがひねくれてるから？</p>	<p>☆</p>
-------------------------	-------------	---	----------

「うつつひでお日記」吾妻ひでお ☆☆☆☆☆

2005年にいろいろ賞を取った「失踪日記」制作中の日記。
 2004年9月3日から2005年2月16日までひたすら毎日書いてある。89、92年の失踪、98年のアル中による入院を経て、きっと毎日がリハビリってことなんだろう。日付、何時起床、就寝、食事、テレビ、読書、短時間の仕事などがただただ淡々と繰り返される。で、ときどきウツが襲ってくる。
 淡々として変化もなくそこがなんかリアルで面白い。読書量はすごい。お金がないからマメに図書館に予約しに行く。他人とは思えない。

